



重症心身障害

重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複している障害です。自分で日常生活をおくことは困難であり、自宅で介護を受けたり、専門施設に入所したりして生活しています。口の動きや目の訴えで意思を伝えますが、常時介護している人でないと理解は困難です。また、医学的管理がなければ、呼吸することや栄養を摂取することが困難な人もいます。



重症心身障害のある人と接する時は

ポイント1 どんなに重い障害があっても真剣に生きています
大切な命を見守ってください

どんなに障害があっても必ず内に秘めた能力を持っています。その力が周囲の人々に大きな勇気や希望を与えます。

ポイント2 困っていそうなときは、声をかけてみましょう

車いすやストレッチャーでの移動時に人手がいりそうなときは、介護している人に声をかけてみましょう。また、人工呼吸器などの医療機器のアラーム音が鳴っているときは、速やかに介護している人に知らせましょう。

重症心身障害の特徴

●姿勢

ほとんど寝たままで自力では起き上がれない状態が多く、座るのがやっとです。

●移動

自力での移動や寝返りが困難で、座った姿勢で移動したり車いすなどで移動を行います。

●排泄・入浴

排泄や入浴に全面的な介助が必要であり、同性の介護が原則となります。

●食事

自力ではできないため、スプーンなどで介助します。誤嚥を起こしやすいので注意を要します。また、通常の食事が食べられない人には、細かく刻んだり、飲み込みやすいようにトロミをつけたりします。外食時には、ハサミやミキサーの貸出しがあると助かります。

●生活動作

手、足が変形または拘縮しており、側わんや胸郭の変形を伴う人が多くいます。極度に筋肉が緊張し、思うように手足を動かすことができません。

●コミュニケーション

言語による意思の伝達は困難で、表現は声や身振りで行います。常時介護している方でなければ理解が困難です。

●医療・健康

肺炎や気管支炎を起こしやすく、多くの方がてんかんを有しているため、いつも健康が脅かされています。また痰の吸引が必要な人が多くいます。常に医師の管理が必要な最重度の人は、水分と食べ物を鼻から胃へ注入する管をつけたり、呼吸がうまくできないため人工呼吸器をつけたりしています。このような障害のある人は外出することが難しいのが現状です。

●好み

音楽、散歩、おもちゃ、感覚遊びなどを好みます。